

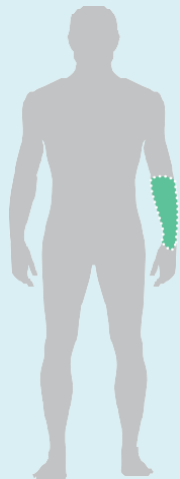
全層熱傷治療にRECELL®システムと6:1自家網状植皮を併用し、創の完全閉鎖が得られた

CASE STUDY / James H. Holmes IV, MD, FACS / Wake Forest Baptist Medical Center, Winston-Salem, NC

患者の状態

プロパンガスの爆発による熱傷を受傷した29歳女性。本症例では左前腕の全層熱傷にフォーカスしている。

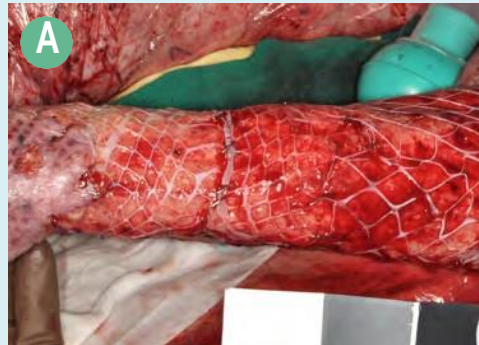
RECELL治療部位



結語

本症例では全層熱傷をRECELLと高倍率自家網状植皮の組合せで治療を成功させることが出来た。RECELLを高倍率自家網状植皮の上から使用する事により、表皮再生と創の完全閉鎖を得るための採皮面積を縮小する事が可能であった。

治療日



術後2週



術後3か月



術後7か月



治療法

最後の切除術及びアログラフトの適用から2週間後、6:1網状分層植皮(STSG)を前腕部に適用し、RECELLで作成したSpray-On Skin™ Cellsをその自家網状植皮の上から適用した(図A)。治療部位はTelfa™ ClearとXeroform™、及び厚みのあるドレッシング材で被覆した。

臨床的アウトカム

RECELLを使用した治療から14日後、創部面積の95%を超える再上皮化が得られた(図B)。3か月間の間(図C)、色素再生により周辺組織との色調と馴染んできており、テクスチャーについては僅かなミスマッチが見られた。その後も継続的に皮膚品質の向上が見られ、術後7か月で優れた色調、テクスチャー、色素再生が示された(図D)。長期に渡る皮膚強度に関する問題は報告されていない。

本紙に掲載している症例は、臨床成績の一部を紹介したものです。全ての症例で同様の効果を保証するものではありません。

